

事 項	トマトかいよう病の新病徴		
ね ら い	平成11年に県内各地のトマト産地で、農作物病害に関する一般的な解説書に記載のない葉脈間壊死を伴う全身の激しい萎凋症状を呈する病害の発生が認められ、検討した結果、かいよう病の1病徴であることが判明したので、症状を記載して今後の診断・防除指導上の参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 葉の症状 はじめ葉脈に囲まれた葉肉部分が暗緑色に変色し、これは速やかに大型の長円形・淡褐色の壊死斑となる。同時に葉縁からの急激な萎凋・枯死が見られるようになる。</p> <p>2 全身症状 これらの症状が認められた株は全身が激しく萎凋するとともに、葉色は全体に淡く、速やかに全身枯死に至る。</p> <p>3 茎維管束の症状 地際茎の維管束は顕著な褐変の見られることもあるが、激しく萎凋した株でも地際茎維管束の褐変は極く軽微であったり、あるいはほとんど変色しないものもある。 地際茎維管束の褐変が軽微な株では、株中位の茎維管束が顕著に褐変し、これらでは髓の崩壊が認められることがある。</p>		
期待される効果	トマトかいよう病の診断が正確なものとなり、防除指導上の参考となる。		
利用上の注意事項	診断に際しては、青枯病・茎えそ細菌病・萎凋病等の類似の萎凋性病害との混同に注意する。		
担 当	青森県農業試験場 病虫肥料部 環境部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成11年度 青森県農業試験場試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 葉縁の退色萎凋

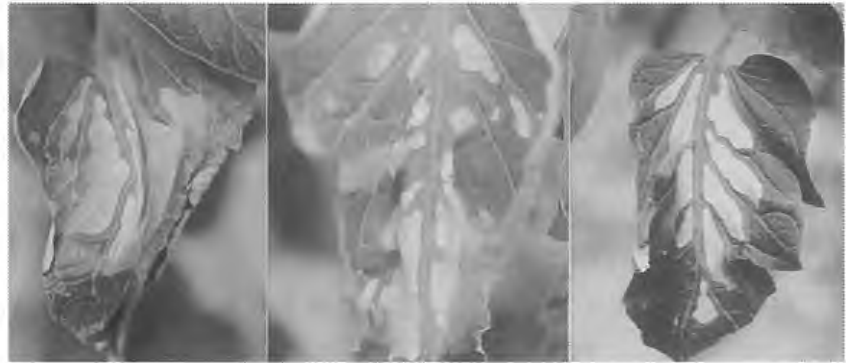


写真2 葉脈間組織の灰～淡褐色壊死斑



写真3 複葉全体の壊死斑



写真4 複葉全体の萎凋



写真5 全身の激しい萎凋症状

